

とうきょう すくわく プログラム

こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

港区立伊皿子坂保育園 実践紹介！

とうきょう すくわくプログラムってなに？

幼稚園や保育所において、子供たちが好奇心や興味を持って、わくわくしながら遊び、学べるよう応援する取り組みです。取り組みを通じて、子供たちの自己肯定感や思いやりといった豊かな心の育ちをサポートしていきます。



すくすく

すべての乳幼児の
伸びる・育つ

×

わくわく

好奇心・探究心

を応援する幼保共通のプログラム

東京都

「非認知能力」の育成等、乳幼児の成長・発達をサポート

好奇心を持つ
きっかけを増やす

考えを広げる

考えを深める

すくわくプログラムはどんなことをするの？

安全安心な環境のもと、子供たちが興味・関心を深められそうなテーマを園で設定し、好奇心を持つきっかけを増やしたり、考えを広げ、深めたりする取り組みを行います。

非認知能力とは

- | 自己にかかわる心の力 | 社会性にかかわる心の力 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 自尊心 ● 自己肯定感 ● 意欲 ● 粘り強さ | <ul style="list-style-type: none"> ● 心の理解能力 ● 共感 ● 思いやり ● 協同性 |

テーマに関する子供たちの考えやイメージを引き出すための問い（例：〇〇ってなあに？）を考え、素材や道具を準備し活動を行います。

テーマ例：光・色・自然・音・泥遊び・絵本など

豊かな心の育ちを応援
乳幼児期は、「非認知能力」を培う大切な時

東京大学大学院 教育学研究科 教授 同附属発達保育実践政策学センター (CEDEP) 長 遠藤 利彦

子供が伸びやかに成長していくためには、無限大の好奇心に従って、心躍らせながら遊び学ぶことが重要です。また、同年代の子などと互いの個性を認め合いながら、1つのことに協力して取り組むことも大切です。この認識のもと、東京都と CEDEP は、「とうきょう すくわくプログラム」の支援に連携して取り組んでいます。



とうきょう すくわくプログラムは
こちらからご覧いただけます。

とうきょう すくわくプログラムは、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター (CEDEP) との協定の下、東京都の「とうきょう すくわくプログラム推進事業」として策定したものです。



港区立伊皿子坂保育園

電話
03-3444-7601

所在地
東京都港区三田 4-19-30



港区立伊皿子坂保育園で

3歳児クラス



とうきょうすくわくプログラムに取り組みました

テーマ どろんこ

日頃から行っている泥遊びを通して、感触やいろいろな形状に変わる面白さを味わうことをねらいとして、「どろんこ」というテーマを設定しました。

活動① じっくり粘土とふれあおう

土粘土と自由に触れ合い、粘土の感触を楽しむ活動を行いました。

これまで、園庭での泥遊びのときには、道具を多く使っていました。今回の活動では、道具は用いませんでした。用意したのは、園庭の砂、土粘土、床に敷くための白いテーブルクロス、そして、木枠をつけたライトテーブルです。



手とからだを使って、土粘土と直接触れ合うことを大切にしました。

活動② みんなで粘土とふれあおう

全身を使って粘土に関わるために、裸足になり、からだをほぐしてから、白いシートの上に出した土粘土と自由に触れ合いました。

子供たちは、ライトテーブルに砂を置き、砂の感触と影を楽しんでいました。

土粘土を裸足で踏んでみたり、手に取って丸めてみたり、粘土に開いた穴をアリの巣に見立ててみたり…



斜面を作って、みんなで土粘土の小さな滑り台を作るなど、室内でもどろんこ遊びを楽しむ様子が見られました。

活動を通して

普段、感触遊びがあまり好きでない子も楽しんでいたのが印象的でした。園にある泥と、活動で使った柔らかい土粘土の感触が違いました。

自分の手やからだの動かし方によって、土粘土が変化する、という面白さや発見がありました。ただ感触を楽しむだけ、形を制作するだけではなく、粘土と子供との様々な関わりと遊びの広がりが見られました。

